



おにぎり通信

2019年2月16日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、四ツ谷周辺と銀座、日比谷公園、東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

日本で生活保護を受けている人の数は約210万人です。日本人全体の約2%になり、ヨーロッパの5~10%に比べてかなり少ないです。これは、生活保護を受ける資格がある人のうち、実際に利用している人の割合(捕捉率)が、低く止まっていることによるものです。

捕捉率が低い理由としては、役所が生活保護費用を抑えようとしがちであること、親族からの援助を求められる可能性が心理的な抵抗になっていること、「恥の文化」である日本人は生活保護を受けることをよしとしない傾向にあること、などが挙げられます。

しかしながら、生活保護は、生活に最低限必要なお金がどうしても足りない時に、それを賄うための当然の権利です。生活保護を受けたおもった時は、私たちに相談してください。

☆2月4日(火) 福祉行動報告

Aさん(80代) 生活保護を申請し、腰痛で入院されました。

次回の福祉行動：2月18日(月)

東京駅丸の内南口地下に朝8時30分までに来てください。車輪の前に「おにぎり通信」を持った者が待機しますので、声をかけてください。病気やケガの治療を希望される方や体を休めたい方と「福祉事務所」に同行します。福祉行動は原則、毎週月曜日に行います。福祉行動は、参加される方がご自身の希望をご自身の言葉でハッキリと福祉事務所に伝えることで成り立ちます。

もより ふくしじむしょ
最寄の福祉事務所

ちゅうおうくふくしじむしょ ちゅうおうくつきじ ちゅうおうくやくしよ かい
中央区福祉事務所…中央区築地 1-1-1 中央区役所4階

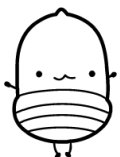
ちよだくふくしじむしょ ちよだくくだんみなみ かい
千代田区福祉事務所…千代田区九段南1-2-1 3階

【「忘れる」ということ】

人間は、年を重ねると物忘れが多くなりますが、そもそも「忘れる」とはどういうことでしょうか。人はなぜ忘れるのでしょうか。実のところ、人は年を取ると、忘れやすくなるというよりは、新しくものを覚えることが難しくなると言うほうが正確です。

ものを覚える記憶には、大きく言って、短い時間のものと長い時間のものの2種類があります。短い時間のものは、例えば昨日は晴れていたかどうかという感じの記憶で、数時間から数日で消えて行きます。これが何らかの理由で思い出として頭の中に残ると、長い時間の記憶となります。例えば、何年も前でも、特別なことがあった日であれば、それと結びついてその日の天気を覚えているということは多いと思います。これが長い時間の記憶です。年を取ると、こういった記憶をして思い出とすることがだんだん難しくなってくるのです。

新しく覚えにくくなるのは、悪いことばかりではありません。嫌なことや辛いことも、長い時間の記憶として残ると折に触れて思い出すことになってしまいますが、短い時間の記憶として忘れてしまえば、その後嫌な思いをすることもありません。さらに嫌な記憶を残さないためのコツは、繰り返し思い起こさないように、わざと別のことを考えるようにすることです。そうすれば、嫌な記憶も少しずつ薄れていきます。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せず、ゴミ箱に入れるなど、片付けにご協力をお願いいたします。おにぎりは必ずその日のうちにお召し上り下さい。また、お1人1個でお願いします。

おにぎり仲間連絡先：080-7795-8535 千代田区麴町6-5-1 聖イグナチオ教会